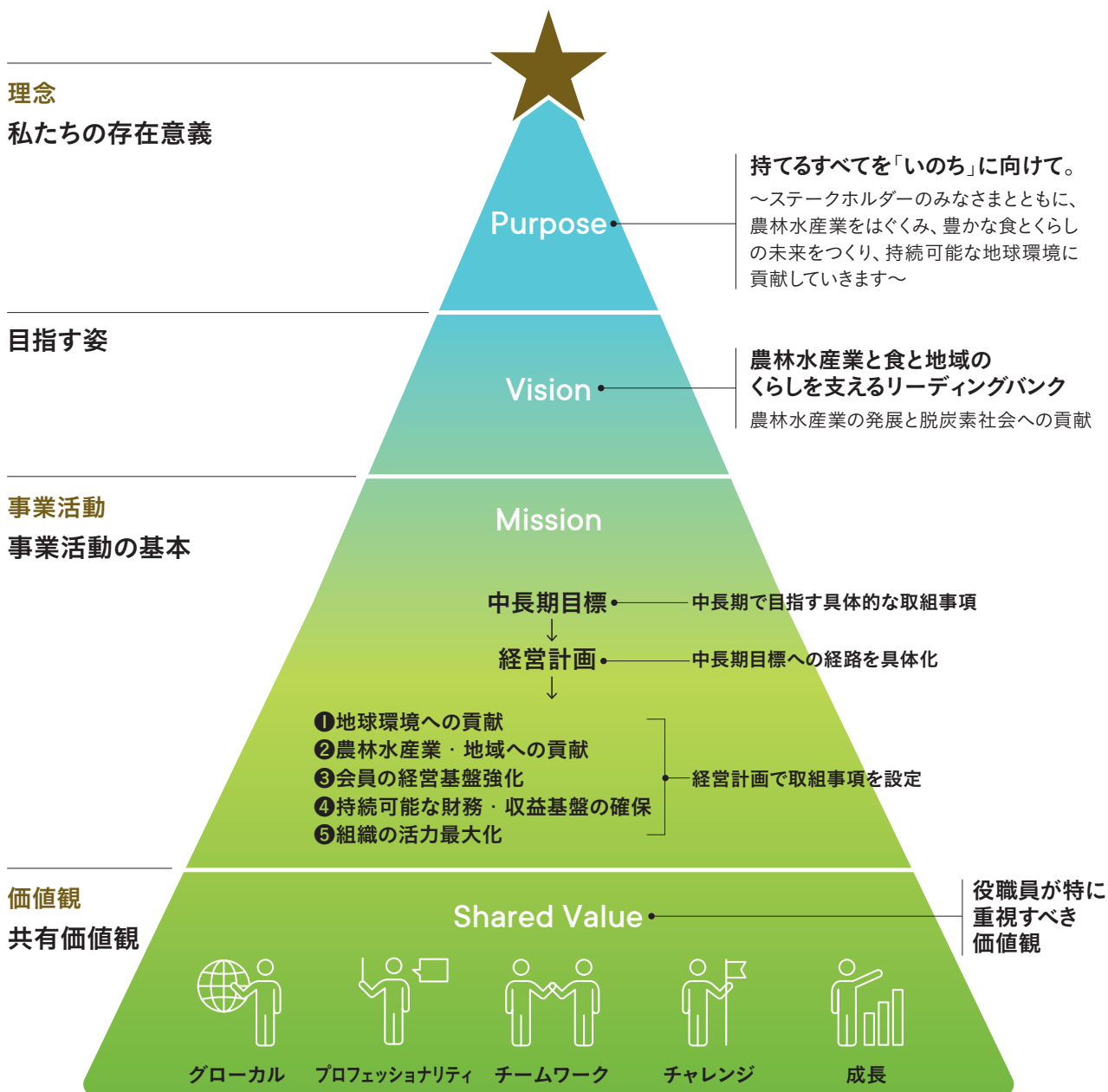


サステナブル経営

農林中央金庫では、地球環境への貢献、農林水産業・地域への貢献、会員の経営基盤強化、持続可能な財務・収益基盤の確保、組織の活力最大化という5つの取組事項のもと、持続可能な環境や社会のために未来に向けてどのような貢献をしていくのかという「存在意義（パーパス）」、その発揮に向けて当金庫が「目指す姿」、これを実現するための「中長期目標」、日々の事業活動の進路として「中期経営計画」を定めています。役職員が特に重視すべき「共有価値観」に基づき日々の事業活動を通じて「経営計画」を達成し、その行き着く先として「中長期目標」の達成を目指していく。その姿が「目指す姿」を体現するための進路であり、社会に示す当金庫の「存在意義」につながっていくことを役職員一同共有し、取り組んでいきます。



ステークホルダー：
JA・JF・JForestなどの会員／会員の組合員（農林水産業に従事するみなさま）／農林水産関連企業をはじめとする預貯金や貸出のお取引先
地域社会のみならず／金融機関や市場参加者、業務委託先など業務全般にわたるビジネスパートナー／行政／職員

「存在意義」の実現に向け、2030年中長期目標として、「農林中央金庫投融資先等のGHG排出量削減 ▲50%(2013年対比)」と、「農林水産業者所得の増加」を目指します。

GHG排出量削減については、当金庫が投融資するお客さま、および当金庫自身の排出量削減を図るとともに、JForest（森林組合）系統と連携した森林由来のCO₂吸収に取り組みます。

これらの目標達成に向け、サステナブル・ファイナンスを2030年までに10兆円新規実行します。

また、サステナブル経営に取り組む組織基盤づくりの一環として、女性管理者比率の引上げを目指します。

農林中央金庫の中長期目標

